緑のサヘル機関紙　Vol.62　2015 年 5 月 27 日

ラ　フォレ　セ　ラ　ヴィ　ー森こそ命ー

La Forêt, C'est la Vie !

チャド共和国の北東部、エネディ山塊で撮影を行なう写真家の大塚さん。

チャドとの出会い

アフリカの熱い太陽とともに大地を滑るように流れていく砂。暑さ 40 度を超すサハラ砂漠は、少ないところでは年に一週間しか雨の降らない乾燥地帯です。私がチャド共和国を訪問したのは 1995 年のことでした。目的は、砂漠では珍しい天空を突き刺すような奇岩や直径 8 キロに及ぶクレーターなど、サハラの絶景を撮影することでした。目指すティベスティ山地は首都ンジャメナから遥か 1500 キロ以上も先にあります。「チャドの絶景を日本で紹介したい」そんな思いに応えてくれたのは、当時チャドで活動していた「緑のサヘル」でした。

現地スタッフの知人にドライバーをお願いし、一台の車に私の友人も含め総勢 7 人で出発。熱砂が吹き荒れる中、25 日間に及ぶ撮影を行いました。ホテルはなく、砂まみれになりながら寝袋で夜を過ごす毎日。それでも、敬虔なイスラム教徒たちに触れ、客人をもてなす彼らの心の奥深さに感激し、サハラの魅力に引き込まれていきました。

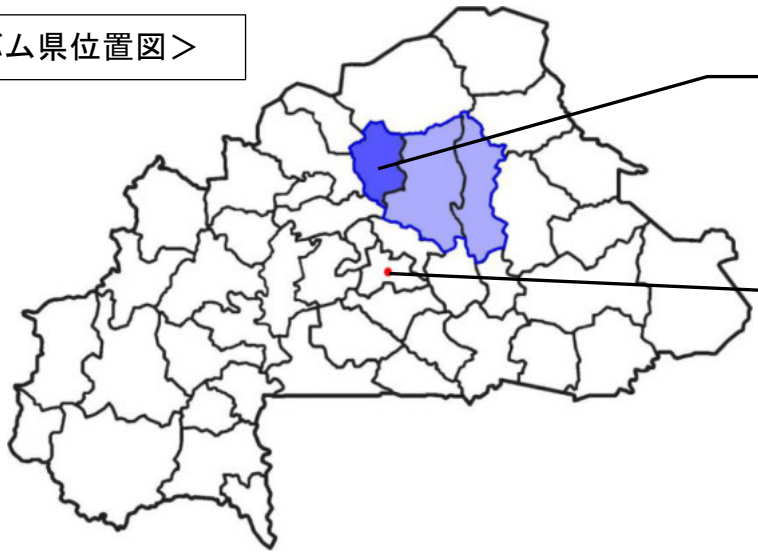
それから 19 年。昨年訪れたチャドは、石油開発が進み外国人が増え町には物があふれ、以前よりも活気に満ちていながらも、家族や友人を大切にする心、そして人々の明るい表情は変わっていませんでした。現在は、隣国ナイジェリアで過激派組織「ボコ・ハラム」の活動が活発になり、その脅威が心配されていますが、チャド国民の強い団結力でいつまでも平和なこの国を守り続けてほしいと思います。最後に、これまで撮影してきたサハラ砂漠の中で、最近の作品を展示した写真展を開催しますので、ぜひサハラの素晴らしい人々と美しい風景をご覧いただきたいと思います。

写真家　大塚　雅貴

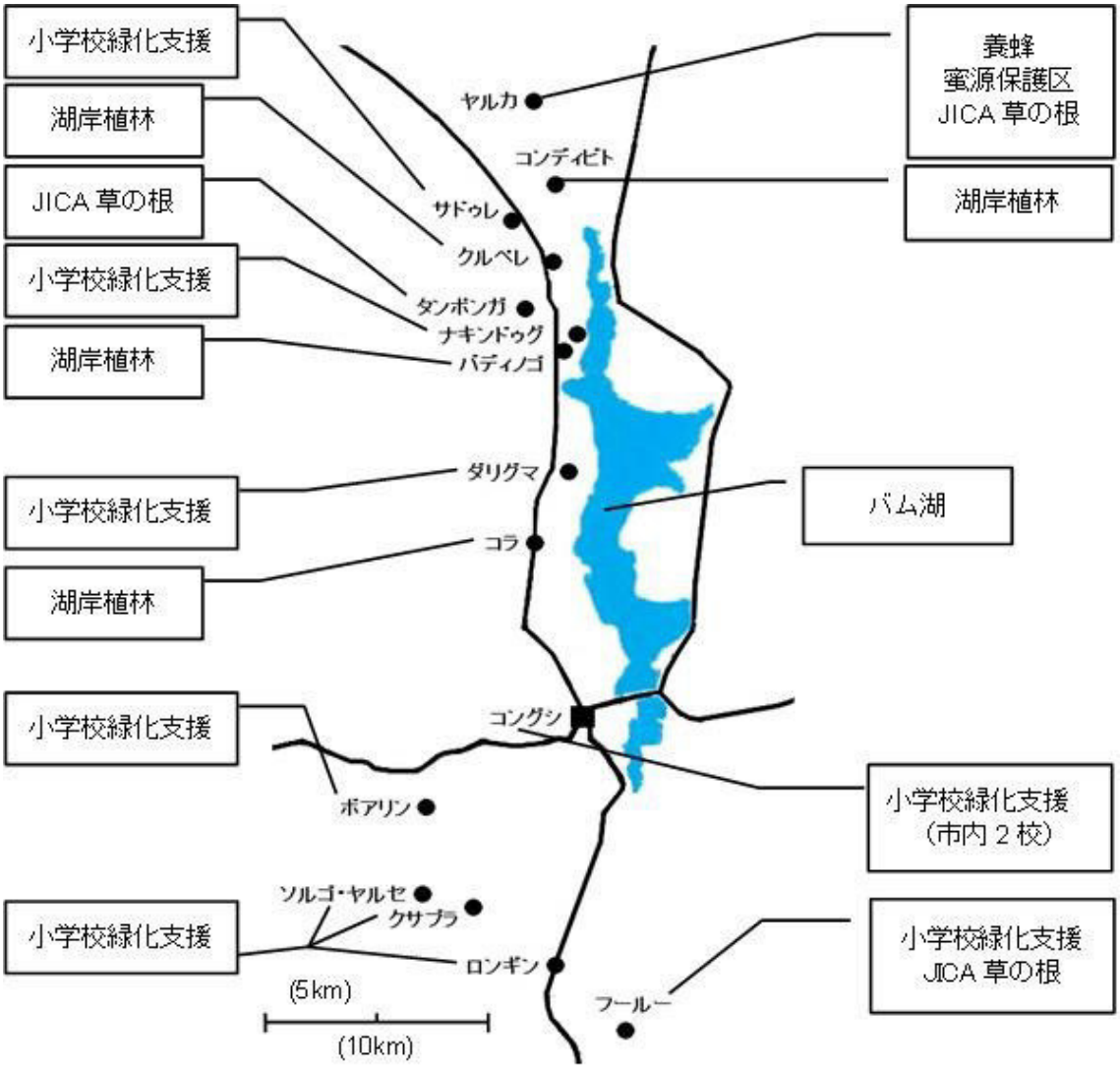
（大塚さんの写真展「サハラの風」については「キャノンギャラリー」ホームページをご覧下さい。）

ブルキナファソの活動地域図

＜バム県位置図＞



＜バム県コングシ地域活動実施村位置図＞



ブルキナファソから　1

２月の天気は、ややめまぐるしい変化を見せました。通常は気温が 30 度未満と比較的涼しい時期なのですが、34～35 度くらいの気温が 10 日ほど続いたり、また涼しくなったり。晴天が続く時期なのに曇ったり、強風や小雨の日もありしました。３月以降は気温が上昇し、本格的な乾季の到来となりました。40 度を超える毎日が続いています。

JICA 草の根技術協力事業

タンポンガ村とヤルカ村、フールー村において、昨年 11 月に開始した JICA 草の根技術協力事業は、ほぼ計画通りに進んでいます。始まって間もないこともあり、活動スケジュールがやや過密ですが、各村の住民たちは積極的に取り組んでいます。

栽培地の生産性向上を目的に行なっている「ディゲット（石堤）設置」活動では、１月から始まった石運びは、３月までに３村で計 549 回行なわれました。ディゲット設置グループのメンバーは 15 名ですが、石運びは大変な労力を要するため、村の住民が総出で協力します。栽培地に運ばれた石は、村の住民の助力を得ながら家族や友人達が中心となって、並べられます。３村で、合計 23.83ha の栽培地にディゲットが設置されました。

同じく生産性向上を目的に行なっている「ザイ農法・堆肥作製と利用」活動では、３村にそれぞれ 15 ヶ所用意された作製穴で、堆肥が作られています。材料の積み込みは完了しており、現在は乾燥を防ぎ発酵を維持するための給水が続けられています。根気と労力を要する作業ですが、おかげで順調に発酵が進んでいます。ザイ農法とは、集水性を高めるために穴を掘り、そこに種子を播いて穀物を栽培する技術です。今は暑さのピークを迎える時期ですが、対象村では栽培地にザイ穴を掘る作業が進められています。

また、現金収入の向上を目的に行なっている「搾油」活動では、タンポンガ村とヤルカ村の女性たちが意欲的に取り組んでいます。両村に導入したコンプレッサー付き手動搾油機は、女性たちに好評です。シアー（フランス語ではカリテ）やバラニテスといった木々の実や落花生から油を抽出していますが、これまでの手作業と比べて作業時間が短く、抽出量も多くなっています。３月までに、両村の合計でシアー油 70 リットル、バラニテス油１リットル、落花生油２リットルが得られ、すべて販売されました。近隣村からも、女性たちが搾油依頼に来るようになっており、地域的な広がりが期待できます。

石堤の設置作業には、時間と労力を要します。
男性も女性も参加して、行なわれます。

コンプレッサー付き手動式搾油機を使っても、
搾油作業には力が要ります。

ブルキナファソから　２

小学校緑化支援プロジェクト（第２期）

昨年から第２期が始まり、バム県内の小学校 10 校を対象に行なっています。10 校に植栽された苗木は計 450 本で、樹種はいずれもニーム（インドセンダン）です。講習会で学んだとおり、適切に植栽されました。

しかし苗木の成育には、植栽後の管理作業が大きく影響します。10 校の状況を視察したところ、各校とも管理作業は行なわれていましたが、小学校によっては不慣れな点が苗木の状態に反映されていました。

防止柵を越えるほど成育しているのですが、先端部分が食害を受けています。

例えば、苗木はきちんと食害防止柵で囲われていましたが、防止柵を越えて成長している枝や葉は、家畜に食害されていました。成育に応じて防止柵を持ち上げたり、防止柵の上部に棘のある枝を載せたり等の対策をとる必要があるのですが、考えが及ばなかったようです。これから経験を重ね、学んでいってもらえればと思います。

チャドから

難民が増え、食糧が不足しています。

武装組織ボコ・ハラムからの襲撃を避けて、チャドへ避難してくるナイジェリア人が増加しています。UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）によると、戦闘状態になった 2013 年５月以来、17,000 人のナイジェリア人がチャドに避難しています。

避難民はナイジェリア北東部に居住している方々で、チャド湖を渡って移動しています。チャド湖には大小の島がありますが、大きい島には村が作られ、人が生活しています。それらの村が避難民を受け入れています。また、UNHCRにより２ヶ所のキャンプが設置され、小島にたどり着いた 2,000 人の避難民が収容されました。

国際機関やチャド政府が迅速に対応していますが、避難民を受け入れた村やキャンプでは衛生や食糧面での困難に直面しています。スーダン難民の時と同様、国境を超えた住民生活への圧迫に、暗澹たる思いがします。

チャド湖に点在する島で、村を作って生活する人々。　（写真は 2009 年）

国内活動

例年この時期は大きなイベントがありません。今期も関係団体とのミーティングや表敬訪問が中心になりましたが、４月 30 日には明治学院大学において講義を行ないました。また３月 28 日をもって、「緑のサヘル」の活動は 25 年目を迎えました。

＜　東京事務局での主な活動一覧　＞

２月	６日(金)	ソフトバンクモバイル「かざして募金」意見交換	担当	(菅川)
３月	19 日(木)	毎日新聞　取材	担当	(岡本)
	25 日(水)	(公財) 毎日新聞東京社会事業団　表敬訪問	訪問	(岡本･菅川)
	28 日(土)	緑のサヘル設立記念日		
４月	14 日(火)	「世界食料デー月間」ミーティング	出席	(岡本)
	16 日(木)	「JICA 草の根技術協力事業」キックオフミーティング	出席	(岡本･大谷)
	23 日(木)	「動く→動かす」ミーティング	出席	(岡本)
	28 日(火)	中丸三千繪後援会　表敬訪問	訪問	(菅川)
	30 日(木)	明治学院大学「世界の環境を考える」講義	講義	(菅川)

毎日新聞東京社会事業団 表敬訪問

３月 25 日、当団体代表の岡本と事務局長の菅川が、「(公財) 毎日新聞東京社会事業団」への表敬訪問を行ないました。事業団では 1991 年以来、「緑のサヘル」が現地で実施する様々な活動への支援を続けており、この表敬訪問も毎年の恒例となっています。

席上では、岡本・菅川が西アフリカやブルキナファソの現況について説明した後、写真資料を用いて活動の進捗状況や成果に関して報告を行ないました。事業団からは、いくつかの質問や確認の後、これまでの取り組みに対する労いと、今後への励ましの言葉をいただきました。事業団の皆さま、本当にありがとうございました。

明治学院大学 講義

去る４月 30 日、明治学院大学において、当団体事務局長の菅川が講義を行ないました。これは 3～4 年生を対象とした連続講座「世界の環境を考える」の１コマで、講義のテーマは「砂漠化」についてでした。

当日は約 150 名の学生を前に、「アフリカ・サヘル地域　砂漠化の現状とその対処」と題し、砂漠化の定義や原因、現地の実情、「緑のサヘル」と住民による取り組み、また次世代への継承等について説明を行ないました。

熱心に耳を傾ける学生たち。

講義終了後には多くの学生から質問が寄せられ、中には卒業後の進路について相談する方もいる等、当団体にとっても有意義なひと時となりました。

事務局より

チャリティ・コンサートin 大阪 1/5(日)

毎年恒例となっているチャリティ・コンサートが、今年も開催されます。今年は「中丸三千繪 with 鈴木大介&桂米團治」と題し、世界的ソプラノ歌手・中丸三千繪さんの歌声を、鈴木大介さん（ギター）、安達朋博さん（ピアノ）、桂米團治さん（ナビゲーター）をお迎えしてお届けします。

主催団体のひとつである「アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会」は、これまでにバザーやコンサートの開催を通じて「緑のサヘル」への支援活動を続けて下さっています。

今年もコンサートの収益の一部が、「緑のサヘル」が現地での活動を行なうための大切な活動資金として寄付されることになっています。素敵なひと時を過ごしながらの国際協力、ぜひご来場下さい！

日時：2015 年 7 月 5 日(日)
場所：大阪府池田市民文化会館アゼリアホール
料金：前売券 3,900 円、当日券 4,400 円（全自由席）
主催：アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会
　　中西クリニック、(財)いけだ市民文化振興財団
後援：池田市、池田市教育委員会、池田市公益活動促進協議会

【 お問合せ 】

◇ 池田市民文化会館
（℡：072-761-8811）
◇ ｱﾌﾘｶの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会
（℡：072-761-0508）
◇ 中西クリニック
（℡：072-762-7275）

【プレイガイド】
上記各お問い合わせ、いけだ市民文化振興財団(阪急池田駅 2 階/℡：072-750-3333/火曜定休)
池田市役所 1 階会計管理室(℡：072-752-1111)、池田市立カルチャープラザ(℡：072-762-7777)
ローソンチケット(L コード 51957/℡：0570-084-005)

自然の恵み ハヶ岳製品を！

長野県八ヶ岳山麓に、「八ヶ岳中央農業実践大学校」があります。ここでは、営農を志す青年たちが、豊かな緑の中で色々な作物や野菜、乳製品や加工食品作りに、日々汗を流しています。

「緑のサヘル」代表の岡本と事務局長の菅川も、この学校の OB です。その縁もあり、「緑のサヘル」を通じて製品をご注文頂くと、大学校のご厚意によって、売り上げの 20%が当団体に寄付されます。

詳しくは最終ページのセット価格表をご覧下さい！

ありがとうございました

＊敬称は略させて頂きました。

【 継続会員のみなさま 】

中村洋／門村浩／山田規矩子／河村ミヨ子／大池良平／碓井道子／永田ひろ子
鈴木俊介／新海真理子／塩沢拓夫／澤井温子／菅沼浩敏／永井邦子／岩永孝子
ムケ／大久保久美子／大阪信愛女学院小学校

【 ご寄付を頂きました 】

小林伸張／松本フミ／山田規矩子／髙橋量平／新田進／小笠原弘子／賀川麻衣
村上和代／碓井道子／畑野めぐみ／丹邦子／小池昌子／小森淳子／木嶋清江
北村資寿子／田中ちえ子／髙松千枝子／笠原喜久子／片岡稔、千尋／赤山孝子
赤山美苗／田中順子／太田宜子／馬場慶子／（公財）毎日新聞東京社会事業団
大阪信愛女学院中学校／大阪信愛女学院高等学校
都立戸山高校水球班ＯＢ有志／個別教育フォレスト 安多秀司
他　匿名をご希望の方　４名

【BOOK募金を通じてご寄付を頂きました 】

室井光子／澤井温子／山本紀久代
他　匿名をご希望の方　９名

【 ハガキ・切手・商品券・図書カードなどをいただきました 】

（株）コーセー経営企画部広報室 秦美奈子／佐々木順平／小椋純子

上記は 2015 年 2 月 1 日から 4 月 30 日までにご支援頂いた方、また、それ以前にご支援頂き、お名前を掲載できなかった方のご芳名であり、5 月 1 日以降にご支援下さいました方については、次号の掲載とさせて頂きました。

【 協力団体・助成団体 】

アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会／(独)国際協力機構(JICA)
(公財)毎日新聞東京社会事業団／(公財)イオン環境財団(環境活動助成)
緑の募金(管理団体:(社)国土緑化推進機構)／(公財)国際緑化推進センター
(社)日本経済団体連合会／(公信)地球環境日本基金／isave(シープ㈱)／住宅エコポイント
アフリカ料理 トライブス／(財)農村更生協会 八ヶ岳中央農業実践大学校
(特活)国際協力 NGO センター／(特活)環境アリーナ研究機構
(特活)ハンガー・フリー・ワールド／国際連合食糧農業機関(FAO)
(公社)国際農林業協働協会／(株)グリムス／株式会社プレジャーワークス
gooddo㈱セプテーニ・ベンチャーズ／ソーシャルアクションリング

【 掲載されました 】

毎日新聞　３月 24 日　コラム「憂楽帳」
（岡本敏樹インタビュー）

（一財）地球・人間環境フォーラム　機関紙「グローバルネット」３月号
「ブルキナファソの現場～バム湖岸植林事業の可能性～」

「緑 の サ ヘ ル 」か ら お 知 ら せ

BOOK募金で気軽に国際協力！

使わなくなった書籍やDVD、CDなどを（株）プレジャーワークスにお送りいただくと、その買取代金が「緑のサヘル」に寄付されます。

申込みチラシをご希望の方は、「緑のサヘル」東京事務局までご連絡ください。

ソーシャルグッドプラットフォーム
gooddo
"社会を良くする" 仕組みづくり

gooddo（グッドゥ）は、応援したい社会貢献団体を、誰でも、今すぐ、簡単に無料で支援することができます。

gooddo のサイト（http://gooddo.jp）にアクセスし、「団体を探す」から「緑のサヘル」を選び、クリックして下さい。応援ポイントが貯まり、ポイント数に応じた支援金が「緑のサヘル」に届けられます。よろしくお願いします!!

【 もくじ 】

1‥表紙
2‥ブルキナファソ活動地域図
3‥ブルキナファソから１
4‥ブルキナファソから２ チャドから
5‥国内活動
6‥事務局より
7‥ありがとう
8‥お知らせ

＜ スタッフよりひと言 ＞

● ブルキナファソでは地方の家屋は日干しレンガで建てられています。ネパールの地震による被害が、他人事とは思えません。（岡本）

● 昨年の御嶽山の噴火、今年の箱根山の鳴動、頻繁に捕獲される深海魚…何かが迫っているような気がして不安です。（菅川）

● 二年ぶりの神田祭。今年は神田明神が将門塚から遷座して400年。天気も良く、町会長作の段ボール神輿も無事役目を終えた。「３３３１」（三本締めのマークです）（本所）

● 焼き魚や揚げ物の匂いがするたび、現地で毎日食べていた「アチャケ」を思い出します。皆さんに、この美味しさを伝えたい～!!（大谷）

ご贈答品・ご挨拶にどうぞ

八ヶ岳農場の特産品

八ヶ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなど、八ヶ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表のとおりです。

大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】

郵便振替用紙に、ご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振込みください。

００１４０－９－５０４２５「緑のサヘル」

お振り込みから到着まで１０日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス/ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー/チーズ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ/ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

内容の詳細をご希望の方は、事務局までご連絡ください。詳細チラシをお送りいたします。

La Forêt, C'est la Vie ! Vol.62

編集 岡本敏樹 菅川拓也 本所稚佳江 大谷恵美 ／印刷 社会福祉法人東京コロニー

発行所 （特活）緑のサヘル ホームページ: http://sahelgreen.org/ E-mail : agsj_tokyo@sahelgreen.org

〒101－0035 東京都千代田区神田紺屋町16番地 ＮＡＳビル301 TEL:03-3252-1040 / FAX:03-3252-1041